

笑顔あふれる学校・思いやりあふれる学校・チャレンジあふれる学校  
 令和2年度 飯野中学校 学校だより 第69号  
 自律 挑戦 協働 創造  
**志保井が丘**  
 2020.12.14 発行 文責 校長 目黒 満  
 教師・保護者・地域がみんなで見守り、みんなで育む学校

## 新年の書き初めに向けた書写授業 特別講師の先生から指導をいただきました。



今日の1・2時間目は2年生が、3時間目には1年2組、4時間目には1年1組が書写(毛筆)の授業を実施し、毎年恒例となっている特別非常勤講師の加藤先生に学校においていただきました。書き初め展に向けた課題を集中して練習し、2年生は「花鳥風月」、1年生は「平和友好」の練習に取り組み、1年生は明日も引き続き行います。

国語の授業の一環として毛筆を取り扱い、小学校では楷書、中学校では行書を使った課題に取り組みます。

毛筆は、手指を使って筆圧を調整しながら書くことから、運動・技能面中心の学習と捉えられがちですが、専門の研究者によれば、課題を見て「分析」し、自分の作品とお手本との違いを「弁別」し、どうすれば上手に書けるのかを「予測」し、どんな技術を使えばいいのかを「把握」して何度も練習する中で「反省」しながら、自分の課題を「焦点化」し、身につけた技術を「適用」して自分の課題を「解決」という一連の思考活動・認知活動が行われていると言われます。

その過程では、自分が思考・認知した結果を、手指の動き＝運動として筆と紙面に伝える技能が鍛えられるので、頭も体も、自分の能力をフルに発揮しないと満足のいく作品が仕上がらないという難しい反面、とても素晴らしい学習活動と言えます。

また、こうした学習や練習を通して、発展的に様々な作品をつくってみたいとか、書道の面白さに魅了されてプロになる人もいて、「発展」する学習活動であるとも言われます。今年度は、コロナの臨時休業等で、例年よりも少なめの時数



しか確保できない状況ですが、短期集中で、総合的な資質能力の向上を図っていきたいと思います。

今日の練習を生かして、冬休みの課題として立派な作品を仕上げしてほしいと思います。



書写の授業を見に3階の視聴覚室にいたら、上の音楽室から3年生の歌声が聞こえてきました。耳を傾けていると、「あーおーげばー とーおーとし〜」と、卒業式の式歌でした。

昨年度の3月からコロナによる臨時休業が続き、入場制限の中での卒業式はまだまだ記憶に新しいのですが、もう今年度の卒業式に向けた練習が始まっています。感染者数の拡大が続いており、収束がなかなか見えない中ですが、どんな状況であっても、心に残る感動ある卒業式にしていきたいと思います。



## 悩みが尽きません！

学校では、令和3年度の教育活動の計画である「教育課程」の編成の時期となりましたが、今一番の悩みは修学旅行や職場体験活動など、校外での活動をどうするかです。特に、先日アンケートをお願いした修学旅行が最大の悩みです。

アンケートをとった時点とは、全く感染状況が違っていること、今後の見通しが見えないこと、またワクチンの国内での接種時期や普及等の予測も全くつかない状況であることなど、不確定要素ばかりで、もしものための「延期や変更」、また最悪の事態である「中止」の可能性も見据えながら、頭を悩ませている毎日です。職場体験については、現在、市教育委員会が受け入れの可否について事業所等に調査をしている段階ですので、なんとも言えない状況です。

今年度の修学旅行は、延期と行き先の変更、日程の短縮により、例年とは全く異なる内容でなんとか実施できました。しかし、10月の実施は進路への影響があり、次年度は通常通りの時期に実施したいと考えています。また、第1・2波を越える感染者増加の現状では、少なくとも首都圏や東京での実施は難しいと判断せざるを得ない状況です。

今後、旅行代理店と慎重に協議を進めながら案を提示したいと考えていますので、その際には、保護者の皆様のご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。